

例会記事

一月例会 一月二十二日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、お雇いオランダ人医師に関する新知見(2)

(レーウエン・スロイス・エイクマンについて)  
オランダにおけるキュンストレーキ

H・ポイケルス

一、吳秀三先生編・肖哲写の絵巻

石田純郎  
岡田靖雄

二月例会 二月二十六日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、金匱要略の底本について

小曾戸洋

一、日本における初期の小児科領域についての一考察

安達原瞳子

三月例会 三月二十六日(土)

順天堂大学医学部九号館三番教室

一、近代における日中漢方医籍の流通について

真柳 誠

一、阿知波五郎先生を偲ぶ

大島蘭三郎

(追加演題) 山田正珍の生年と没年

長谷川弥人

四月例会 四月二十三日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、古学と古医学、特に荻生徂徠と吉益東洞に関連して

荒木ひろし

山下政三

六月例会 六月二十五日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、愛生館の機構について

沼倉延幸

一、「一氣留滯説」と「万病一毒説」について

—江戸時代古方派の病因論—

花輪壽彦

一、中川五郎治の用いた痘苗株について

添川正夫

例会講演要旨

一、「一氣留滯説」と「万病毒説」について

—江戸時代古方派の病因論—

花輪壽彦

「一氣留滯説」と「万病一毒説」を対立する病因論とは考えずに、むしろ古方派のめざした「医論の簡略化」と「臨床経験の重視」という歴史的な流れのなかで、両者の共通性と相違点について若干の考究を試みた。

「一氣留滯説」については『病因論』(香川修庵述)と『救弊医話』(赤沢容斎)によってその内容をまとめた。「万病一毒説」については『東洞全集』に拠った。東洞の一毒説は「一氣留滯説」という発生病理の中にある「思弁」を排するという形で提出されたものであると考えた。また生体内の病変に対し、「毒」という概念を与えた思想的基盤として、『荀子』の「正名思想」を引用した。東洞が「毒の所在」という固体病理学的思考に立ちな